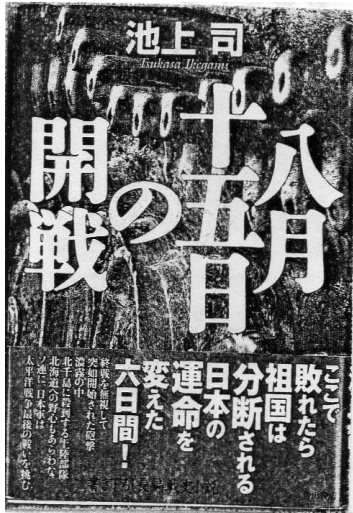


図書紹介



「八月十五日の開戦」この本の主人公長島厚大尉は誰であろう本稿終戦秘話の講師長島厚氏に他ならない。

長島大尉は、新品少尉時代戦死した隊長の代理戦車隊長としてノモンハン敵陣に突っ込み奇跡的に生還したが、終戦前年に占守島の独立戦車第11連隊に配属され、国際法を無視したソ連侵攻に対する自衛戦闘では停戦交渉の軍使として敵陣に乗り込んだ。

この本は長島大尉の軌跡を辿って満州千島列島の戦記を元にして作られたフクシオンであるが、著者の池上司氏はプロの作家。豊富な資料の裏付けのもと、時には当時の国際情勢を織り交ぜ、日本軍の立場とソ連軍の立場の両面から交互に交戦場面を描写する等読者の興味を引きつける読み物としては十分である。

ソ連参戦直前、関東軍はなぜ持久戦への

移動を強行したのか、そのために不十分な体勢のままソ連軍を迎え撃たざるを得なかった。ソ連軍の侵攻の時期を読み違えていたではないかというのが素朴な疑問である。

次の疑問はソ連軍の千島侵攻に対し海軍は何をしていたのか。

これらの疑問に対してこの本は或る程度の回答を与えてくれる。(川島順)

池上司著「八月十五日の開戦」角川書平成12年5月発行。定価1700円(別)